

感想

総体的にレベルも高く、傾向も幅が広く各自が自由に個性的表現しているのが感じられた。

流行を追う模倣的な作品は少なく、特に若い人達の作品にはまた技術的には未完成だがユニークな作品が目につき好感を持った。

中には、絵を描き始めたばかりのよう人の作品も見られるが、皆楽しく熱心に描いていることが感じられ、市民展でなければ見られな
いなどやかな雰囲気がある。今後この展覧会をのぼすことは大いに地方文化の向上になることと思います。

新制作協会会員

審査員 角

浩

昭和46年10月12日～15日

平 市 民 会 館

第1回 いわき市民美術展覧会入賞者

市長賞 議長賞 教育長賞 佳作	部門	題名	氏名	住所
〃	洋画	風景	武 夫	夫和子
〃	日本画	漁港の印象(2)	野 武	子 夫
〃	洋画	秋	野 節	夫 一
〃	洋画	漁	崎 邦	子 子
〃	洋画	船	木 賢	子 子
〃	洋画	港	沢 隆	子 子
〃	洋画	帯子	辺 紀	夫 彦
〃	洋画	子	本 富	弘 巧
〃	洋画	械	笠 将	夫 男
〃	洋画	2	木 貞	郎 男
〃	洋画	画	頭 和	
〃	洋画	弧	本 川	
〃	洋画	物	藤 田	
〃	洋画	壁のイメージ(A)	郷 義	
〃	洋画	警梯	谷 三	
〃	洋画	初		
〃	洋画	秋		
〃	洋画	山		
〃	洋画	女		
〃	洋画	と		
〃	洋画	猫		

▶ 出品点数 163点
▶ 招待作品 11点

市展を審査して

出品者がみなその個性によつて自由にのびのびと描いている。ごく初歩の人からかなり高度の技術を持つた人まであり、モチーフもこの土地がらを感じさせるものが多く、見ていると興のつきないものがある。それだけに仲々優劣のつけ難い点があつた。中には先輩画家の影響のつよい作品もあつたが、それはそれとして、若い人の勉強の過程として認めた。具象絵画の場合は基本的には物をよく見て描くというところから始まるので、ごく素直にしかもの確に描く努力をした作品にも注目した。この展覧会らしく稚拙な作品は少なくないが、それは当然のことで、こういう作家のひたむきな、素朴な感情こそが底辺となつて、今後の発展の大きさが期待されるし、技術的にも上達の可能性は尽きない。

結論として私の感想を率直に言えば、全体としては作品のレベルが高いといふことで、受賞作家は勿論、それ以外の作品でも佳作が多かつたといふことである。こういう催しを一つのはげみとしてみます絵を描く人がふえ、そしてその作品を観賞し声援する人が多くなることを期待する。

独立美術協会会員

審査員 鳥居敏文

第2回いわき市民美術展覧会入賞者

	部門	画題	氏名	住 所
市長	賞 洋画	漁船 B	鈴木邦夫	
議長	賞 "	城山からの展望	林昭生	
教育長	賞 "	補修	北郷喜三郎	
〔佳 作〕				
いわき商工会議所会頭賞	日本画	晩秋	箱崎節子	
東ロータリークラブ会長賞	洋画	湯きの幻想からの決別	草野 薫	
魁文堂	賞 洋画	函館風景	中村亨司	
坂本紙店	賞 "	港の印象(17)	天野 和	
報徳社	賞 "	秋	藤田正明	
教育委員会	賞 "	なごり	鬼頭貞彦	
"	"	船	加藤一夫	
"	"	分割された空	林 和利	
"	"	閉山	橋本 弘	
"	"	角のある動物	佐藤和夫	
"	"	船	伊沢賢一	
"	"	花ひらく	瀬谷良男	
"	"	交網船	渡辺文雄	
"	"	船	平子貞男	
"	"	カンナ	金成キミ	

出品点数 126
招待作品 12

市展を審査して

大作必ずしも力作ならずと云うけれどもこの展覧会に関する限り大変力作であると見受けました。

全力投球をして少しも甘えず自分自体を掘り下げて進もうとする気魄が溢れ頼もしい限りであると思います。技巧に溺れずきれいごとにとらずひたすら自分のうちにあるものを外界の対象を通して表現していく真摯な態度から生れるものは、きつとみる人の心をとらえて放さないと思います。

全般を通して見ますとかなり力量の枠差は認められますが、然し作品を通して自らを世に問うてみようと云う熱意が全体の雰囲気や相当熱つばいものにして鑑賞者に満足を与えるものと信じます。

賞の決定が偶々、具象の傾向を持った作品に集まってしまったようですが、これは故意に意識して選んだものでなく、抽象絵画の持つ前衛的役割を思うと自らそのきびしい作画態度が要求されると思います。類型的在り方がチラチラして突込んだ個性的在り方が欲しいと思いました。同様なことは具象的傾向をもつたものにあてはまるとは思います。結果的にはこちらの水準が高いように思います。日本画にも色々な試みが出かかっているように思いますが水彩、版画の分野が少々劣るように思います。もつと突込んだ仕事があつてもよいと思います。

郷土文化の水準の高さに敬意を表すると共にいつその発展を祈ります。

一水会会員

審査員 田 中 春 弥

第3回いわき市民美術展覧会入賞者

	部門	画題	氏名	住所
市長賞 副賞大黒屋ブックス	洋画	炭坑の思い出	中村亨司	
議会議長賞 副賞大黒屋ブックス	"	作品喜	藤田政明	
教育長賞 副賞ヤマニ書房	"	船	伊沢賢一	
(佳 作)				
福島県報徳社賞	"	廃 船	四家武光	
諸橋金物賞	"	五 月	後藤全久	
坂本紙店賞	"	面木型のある 三春の里	林 昭生	
トカイ賞	"	船 骨	今野峯生	
いわき商工会議所 会頭賞	日本画	檜 原 湖	河野イチ	
大黒屋ブックス賞	洋画	港	鬼頭貞彦	
"	"	トレド郊外	湖月健太郎	
教育委員会賞	"	閉山の跡	橋本 弘	
"	"	漁 船	矢吹栄子	
"	"	風 景	根守キヨ子	
"	"	芙 蓉	金成キミ	
"	"	蝶 と 女	瀬谷良男	
"	"	春 雪	吉田忠二郎	
"	日本画	春	箱崎節子	
"	"	林 間	成清撰枝	

出品点数 147
招待作品 17

市民美術展を審査して

1人1点で応募総数123点の中から18点の受賞候補作品を選ぶのに30点近くのよい作品が集まった。最後の25～6点は甲乙つけ難い技量伯中した作品だったが、結局この入賞順序になった。

特に市長賞の作品をはじめとして18点の作品の中には、東京の展覧会で相当の成績をおさめている人や、この地方の市美展をめざして制作を続けている若い人も何人かいるし、またこの地域で落ちついて長い創作体験をもった人もいる。

今回、特に高年齢層の人々のよい成績をあげているのがめだった。

全体的に抽象画が少なかったが、入賞した作品3点は20才前後の若い人が中心であり、ますます市民美術展が年齢、職業など非常に広範な人々を集めており、非常にこれからが楽しみである。

東京芸術大学教授

春陽会会員 中 谷 泰

第4回いわき市民美術展覧会入賞者

	画 題	氏 名	住 所
市長賞 副賞大黒屋ブックス	船	骨	今野 峯 生
議会議員賞 副賞トーカイ賞	工	場	蛭田 誠
教育長賞 副賞大黒屋ブックス	雪 の 山		阿部 好 伸

(佳 作)

福島県報徳社賞	自 画 像	金 成 キミ
ヤマニ書房	分割された空	林 和 利
椿屋賞	夢みる少女	吉村 友 延
大黒屋ブックス	港の印象 41	天 野 和
マルトモ書店	閉山の跡	橋 本 弘
坂本紙店賞	三春の面木型	林 昭 生
諸橋金物店	ただすとおもちゃ	武 田 喜美男
教育委員会	D U B N D E	湖 月 健太郎
〃	昼 休 み	大 島 義 勇
〃	秋深し閉山の跡	加 藤 一 夫
〃	横 川 風 景	丹伊田 直 一
〃	割れたガラス	渡 辺 文 雄
〃	小 浜 の 海	官 本 正次郎
〃	冬 の 朝	星 野 貞 良
〃	竹 陰	高 橋 不 二 夫

市民美術展の作品に接して

とてもきれいな展覧会になりそうです。会場の壁面も新しくすつきりとすることでしょう。市展ということで来ましたが、みごとな作品が多く驚きました。

比較的大きなものに良い仕事がみられましたが、かなり専門的にやっている人が受賞されたように思います。残念ながら選外になつた人々を含め趣味でやっている方々については、つぎの機会によい仕事をしていただきたいと思います。3人の受賞作品は、非のうちどころのないよい作品だと思います。最後に抽象系統の作品が、少なかつたことは土地柄かも知れませんが、多数の方が積極的に手を染めていただきたいと思います。

東京芸術大学講師

杉 全 直

第5回

絵画部門入賞者

	画 題	氏 名	住 所
市 長 賞	タンクの見える風景	蛭田 誠	
市 議 会 議 長 賞	75-映-164	藤田 政明	
教 育 長 賞	漁 村 風 景	広瀬 諭	
(佳 作)			
大黒屋ブックス賞	船 骨	今野 峯生	
トマカイ文具賞	白 い 風 景 II	阿部 好伸	
大黒屋ブックス賞	黒 い ハ ッ ビ	舟生 孝	
椿 画 廊 賞	道 化	吉村 友延	
ヤマニ書房賞	M か ら M	林 和利	
商工会議所会頭賞	や ま の 跡	橋本 弘	
ライオンズクラブ賞	青 の 印 象 16	天野 和雄	
加地和組賞	詩 物	宮田 英子	
マルトモ書店賞	白い建物の見える風景 III	大平 洋一	
福島県報徳社賞	築港のスクラップ	高城 忠男	
"	漁 港	渡辺 文雄	
教育委員会賞	雪 も よ い	星野 貞良	
"	南 国 の 街	湖月 健太郎	
"	船 引 場	平子 貞男	
教育委員会賞	堅坑のある風景	加藤 一夫	

市民美術展の作品に接して

市民展の審査は、はじめてのことなので、どの程度のレベルか、多少の不安をもっていました。

意外にも、困ったり、もて余したりするような作品は殆んどなかったのは本当に幸せでした。

賞の選衡も、優秀な作品が多くあり、その中からスムーズにすませました。むしろ、佳作外に落すのに苦労しました。後味の良い作品群でした。

一つ、つけ加えたいことは、額装への無関心さです。額装は、高い安いの問題ではなく、絵に最もマッチしたものが最良で、額も絵の重要な一部分であることに留意してほしいと思います。

日本版画協会会員

萩原英雄

第6回 絵画部門入賞者

	画 題	氏 名	住 所
市長賞	やまの跡	橋本 弘	
市議会議長賞	航跡は消された	松田 信三	
教育長賞	風景(スペインにて)	湖月 健太郎	
(佳 作)			
大黒屋ブックス賞	修繕する船	大平 洋一	
〃	埠頭のスクラップ	高城 忠男	
椿屋画廊賞	古い建物の見える風景	蛭田 誠	
トーカイ文具賞	静 物	宮田 英子	
商工会議所会頭賞	空 箱	場馬 伸一	
ライオンズクラブ賞	76 秘めたるリズム	藤田 政明	
文化団体連絡協議会長賞	塵 劫	坂本 剛	
福島県報徳社賞	う た う	舟生 孝	
〃	私 の 恋 人	緑川 峰雄	
加地和組賞	工場風景	平子 貞男	
諸橋金物株式会社賞	解体倉庫	渡辺 文雄	
椿屋画廊賞	早 春	高岡 勝則	
ヤマニ書房賞	船	箱崎 節子	
坂本紙店賞	採石場	新妻 忠	
教育委員会賞	港風景(土佐清水港)	上田 典雄	

市民美術展の作品を見て感じたこと

作品水準が全体に高いので佳作を決定するのに、正直のところ骨が折れた。

最後の受賞作を決める時は汗が出る程であった。自分の好みにこだわりすぎていけないし、実際こういう時は苦しくなる。とにかく作品自身の持つ力に私は出来るだけ素直に従うことにした。作品のもつ視野の広さというか、みずみずしさというか、明日への可能性をもふくめてそんなものを評価したいと思った。

人物など具象的な作品ですごく奥の深い作品がほしいと思った。

主体美術協会会員

吉 井 忠

第7回 絵画部門入賞者

	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	Double. Reflections	高 杉 和 久	
いわき市議会議長賞	青 の 印 象	天 野 和 雄	
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	解 体 倉 庫	渡 辺 文 雄	
(佳 作)			
ダイコクヤボックス賞	北 の 街	橋 本 弘	
〃	パラソルのある風景	湖 月 健太郎	
椿屋画廊賞	カラベラ天使	峯 丘	
〃	とりのぞかれる家	蛭 田 誠	
商工会議所会頭賞	北 国 の 運 河	加 藤 一 夫	
ライオンズクラブ賞	ノルヴァン街	菊 地 征 夫	
文化団体連絡 協議会会長賞	風 景	広 瀬 諭	
福島県報徳社賞	わらぼっち	中 川 顕 三	
〃	じゃんがら念仏踊り	大 内 貌 子	
加 地 和 組 賞	静 物	佐 藤 麗 子	
株式会社すまい賞	キルンのある工場	松 田 信 三	
トーカイ文具賞	管のある風景	平 子 貞 男	
昭 文 堂 賞	空 箱 (B)	馬 場 伸 一	
坂 本 紙 店 賞	工 場 風 景	大 平 洋 一	
ヤマニ書房賞	夕暮れの漁村	小 林 光 恵	

市民美術展の作品を見て感じたこと

文化庁ができた頃、初代長官の今日出海さんは何よりも、中央と地方の文化的格差をなくすために特別な努力を払われた。その頃から見ると、今はその格差はぐっと縮まったように思われる。美術館を持たない県はなくなったし、中・小都市の文化的施設も整ってきたということは、このいわき市もその例外ではない。

選に当って出品作の技術的水準の高さ、主題の選択も思い思いと見られたがその中で工場を描いた作が多かったのはこの地方の環境によるものだろうか。それだけに佳作もあったが、静物や人物にもっと佳作がほしかった。

唯、特に感じたのは、色についてもっと変えてほしいと思った。折角の努力作でも色がにぶい為賞を逸している例が多かった。構図もよい、調子もよい、絵具のつき方も相当なものなのに、色では沈黙状態となって、これを歌曲で言えば詞はどんなに秀れていても曲がまずければ歌にならないと同じことだ。と言って何も派手な絵具をベタベタ塗れというのではない。絵具の純度を大切に、少しは調子を破っても、色で歌わせたような絵でなければ、魅力ある画面にはならない。

行動美術協会会員

田 中 忠 雄

第8回

絵画部門入賞者

	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	静 物	宮 田 英 子	
いわき市議会議員賞	青の印象 No. 43	天 野 和 雄	
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	球形タンクのある風景	今 泉 木 主	
	(佳 作)		
ダイヨクヤブックス賞	船の上のコンテナ	渡 辺 文 雄	
〃	原 爆 ド ー ム	橋 本 弘	
椿屋画材店賞	廃 坑	鯨 岡 正 枝	
〃	サーカス小屋	橋 本 松 雄	
福島県報徳社賞	風 景	四 家 武 光	
〃	夏 の 花	沢 田 三 男 治	
〃	解体されるタンク	今 野 峯 生	
〃	盛 夏 某 日	大 内 叡 子	
商工会議所会頭賞	唐 錦 の 江 田	吉 田 実	
文化団体連絡 協 議 会 会 長 賞	風 景	掃 部 関 春 雄	
ライオンズクラブ賞	海 の 詩	桐 原 トミ子	
加 地 和 組 賞	廃 船	吉 田 忠 二 郎	
株式会社すまい賞	タンクのある風景	平 子 貞 男	
トーカイ文具賞	錦 秋	村 松 甚 一	
諸橋金物株式会社賞	ぶ ど う	吉 田 孝 治	
昭 文 堂 賞	わらぼちの前で	中 川 顕 三	
坂 本 紙 店 賞	静 物	佐 藤 一 也	
遠 藤 一 心 堂 賞	ひ ま わ り	湯 山 富 士 夫	
〃	陸 橋 の 北 側	松 田 信 三	
〃	M、か ら M (グラフからの断層)	林 和 利	

市民美術展の作品をみて

いわき市は美術が盛んだと聞いたが、この市民美術展をはじめて観て、最初に感じたことは、出品作の出来栄が平均していることだ。賞をきめるのに苦労するのではないかとこの気持になった。

皆相当に手馴れた絵が多いからだ。

技術的な点では申分のない感じだ。

しかし、自分のイメージをはっきりとかざり気なく現わそうとする態度がみえる絵となると、そう沢山には無い。

情報過多の時代に打ち負かされないように確固とした自分の世界を守って欲しいという気持になった。

大 沢 昌 助

第9回

絵画部門入賞者

	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	オッターボート	高橋 不二夫	
いわき市議会議長賞	原 風 景	渡 辺 八 市	
いわき市教育委員会 教 育 長 賞	部 屋	佐 藤 麗 子	
(佳 作)			
ダイコクヤブックス賞	遠 野 の 里	四 家 武 光	
〃	「 ! 」	石 川 貞 治	
福島県報徳社賞	黒 の 海 景	高 杉 和 久	
〃	コ ン テ ナ ー	渡 辺 文 雄	
〃	あ る 日 の 海	馬 目 晴 夫	
〃	青 の 印 象 No. 49	天 野 和 雄	
〃	冬 の 日 (若 者)	小 林 安 則	
椿屋画材店賞	漁のなかった日	佐 藤 卓 布	
〃	女	米 倉 昭 一	
いわき商工会議所 会 頭 賞	晩 秋	吉 田 昇	
いわき市文化団体 連 絡 協 議 会 会 長 賞	平 潟 港	林 昭 生	
いわきライオンズ ク ラ ブ 賞	休 日 の 午 後	湖 月 健 太 郎	
株式会社加地和組賞	セニョリータ Sita.Xの肖像	峰 丘	
株式会社すまい賞	red still life	菊 地 征 夫	
有限会社トーカイ賞	小 さ な 入 江	熊 坂 行 夫	
諸橋金物株式会社賞	静	四 家 広 一	
昭 文 堂 賞	四倉セメント工場	猪 狩 功	
株式会社坂本紙店賞	寸 暇	馬 上 す み え	
いわき市民美術展覧会 運 営 委 員 会 賞	四ツ手網のある風景	中 條 正 敏	
〃	裸 婦	大 内 重 子	
〃	晩 秋	北 林 ま さ 子	
〃	路 上	白 土 か よ 子	

第10回 絵画・彫塑の部門入賞者

市民美術の飛躍をめざして

この市民美術展には、大作が多かったので大変心強かった。努力のあとが充分見られた。中には未熟ながら大作に挑んで苦しんだような作品もあった。

技術的水準は相当高いと思ったけれども、内面的に見る者を打ってくる作品となると、やはり選ばなければならなかった。三賞を決めるのには骨折った。現実感がつよく感じられ、色彩感が独自の秀れた作品に、私は注目しないではいられなかった。抽象絵画は少なかったが、それぞれに感覚のよさがあった。

難波田 龍 起

	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	解体船の家	渡辺文雄	
いわき市議会議長賞	室内の静物	宮田英子	
いわき市教育委員会 教育長賞	奥会津(針生の里)	四家武光	
(佳 作)			
ダイコクヤブックス賞	そ の 日.....	根本佳津子	
“	作 品	橋本 弘	
福島県報徳社賞	赤い魚が飛んだ日 私はインド人になった	峰 丘	
“	廃船のある風景	蛭田 誠	
“	隣 の 工 場	平子 貞 男	
“	青の印象 No. 56	天野 和 雄	
“	舫船(もやいぶね)	高橋 不二夫	
椿屋画材店賞	原 風 景	渡辺 八 市	
“	SAFETYZONE (安全地帯)	高杉 和 久	
いわき商工会議所 会頭賞	Scenery.....時	阿部 幸 洋	
いわき市文化団体 連絡協議会会長賞	お ん な	米倉 昭 一	
いわきライオンズ クラブ賞	廃 屋	佐藤 信 弘	
株式会社加地和組賞	修理を待つ舟	今泉 木 主	
株式会社すまい賞	雪囲のある風景	北林 清	
有限会社トーカイ賞	駱 (かげり)	白土 かよ子	
諸橋金物株式会社賞	T 子 像	川崎 聖 子	
昭 文 堂 賞	わらぼっち風景	中川 顕 三	
株式会社坂本紙店賞	夏の夜あけ	渡部 トミ子	
いわき市民美術展覧会 運営委員会賞	風景春の日	大森 照 夫	
“	私の病室(へや)	大島 義 勇	
“	静 物	助川 育 子	
“	静 物	遠藤 トヨ子	
“ (彫)	惜 春	根本 昭	
“ (彫)	裸 婦	小滝 勝 平	
“ (彫)	二 人 の 娘	根守 キヌ子	